

機関番号：32689

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2009～2010

課題番号：21820052

研究課題名（和文）1920～30年代のアメリカの雑誌におけるウルフの受容

研究課題名（英文）The Reception of Virginia Woolf in American Magazines in the 1920s and 1930s

研究代表者

内田 夕津 (UCHIDA YUZU)

早稲田大学・留学センター・助手

研究者番号：30546255

研究成果の概要（和文）：本研究では、アメリカの雑誌 *The New Republic* におけるヴァージニアウルフの受容を明らかにした。ウルフが投稿した記事（文学批評、社会批評、短編小説）と共にウルフに対する *The New Republic* 誌に掲載された批評を分析した結果、同誌において矛盾したウルフ像が提示されていたこと、および、当時同誌内に見られたアメリカニズムの揺れを反映させていたことを明らかにできた。また、雑誌に掲載されたウルフのエッセイとの個別の出版状況やテキストの差異を挙げることで、今後のウルフ研究者が依って立つことのできる一次資料を提供した。

研究成果の概要（英文）：In this study it is clarified that the reception of Virginia Woolf was ambivalent in *The New Republic*, an American magazine to which Woolf frequently contributed reviews and short fiction, and that this ambivalence reflected the magazine's inconsistent attitude toward America. Also I examined several book versions of Woolf's essay which was originally printed in the magazine, thus presented a resource that other researchers can use.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	690,000	207,000	897,000
2010年度	770,000	231,000	1,001,000
総計	1,460,000	438,000	1,898,000

研究分野：英米文学

科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学

キーワード：英米文学、ヴァージニア・ウルフ、アメリカン・モダニズム、periodical studies

1. 研究開始当初の背景

1920年代から1930年代にかけて、ウルフはアメリカの雑誌に頻繁に寄稿していたが、その詳細は研究されてこなかった。しかし、アメリカの雑誌への寄稿は金銭面からも知名度の面からも、ウルフにとって重要な文学活動であったはずであった。

本研究では、新たな資料を発掘し、これまで看過されてきた、ウルフ作品のアメリカの雑誌における受容を明らかにすることで、ウルフ研究だけでなく雑誌研究やアメリカ文学史にも貢献できると考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、イギリス人作家ヴァージニア・ウルフが同時代のアメリカの雑誌においてどのように受容されていたかを明らかにすることである。

3. 研究の方法

1) ウルフ作品が網羅されているビブリオグラフィを用い、ウルフが寄稿した雑誌記事と寄稿先の雑誌を調べ、入手する。

2) ビブリオグラフィには記録されていない、ウルフについての記事（編集者や他の作家による記事およびウルフ作品の出版広告など）とその掲載誌を、アメリカの大学図書館の電子アーカイブ等を用い調べ、入手する。

3) 各雑誌の編集方針や編集者の思想が反映されている記事入手し、各雑誌の特徴を分析する。特に、目次、編集後記、当時の社会情勢批評や文学批評といった記事を中心に分析する。

4) 以上のようにして得た資料をもとに、当初掲載された雑誌の文脈に作品を据えて、各

雑誌とウルフとの関係を書誌学的に分析する。

5) 他誌もしくは本に同じ記事が掲載されている場合、それぞれの記事入手し、各テキスト（文章そのもの、レイアウト、註、といった項目を中心に）を比較する。

テキストに変化が見られた場合、その変化が、どのような作品理解や作家理解に結びつきえたかを検証する。

4. 研究成果

研究助成費を用い、アメリカの大学図書館および公立図書館へ赴き、資料（ウルフが執筆した小品、および編集者や他の作家によるウルフへの言及が含まれる記事、ウルフの直筆原稿）を合計数百点閲覧、収集した。

主に、ウルフの、アメリカにおける最大の寄稿先であった雑誌 *The New Republic* におけるウルフ受容を分析した。

分析の結果、以下のような2点の成果を得、学会誌や学会でその成果を発表した。なお、それぞれの成果の詳細は後に述べることにする。

1) 本研究により、これまで看過されがちであった、アメリカにおけるウルフ受容の重要な側面を提示することができた。

2) 今後のウルフ研究者が利用することができる一次資料を提供できた。

1) の詳細は以下の通りである。

雑誌に掲載されたテキストが持つ最大の特徴は、テキストを取り巻く様々な要素から影響を受けることである。他の作家の記事や雑誌の編集方針が与える影響から独立して、テキストが存在することはないのである。ウ

ルフも例外ではない。ウルフに対する評価やウルフの表象は各雑誌の特色を反映しており、各誌が特有の「ウルフ」像を作り上げている。本論では *The New Republic* に掲載されたウルフの二編のエッセイ “The Movies and Reality” と “On Not Knowing French”、およびこれらのエッセイに対する雑誌側の反応を分析し、雑誌内で二人の矛盾する「ウルフ」像が作り出されていたことを論じた。

はじめに、“The Movies and Reality” とそれに対するギルバート・セルデスによる応答を分析し、いかにウルフのエッセイをセルデスが都合良く誤読して提示したかを論じた。この誤読により、ウルフは、当時のアメリカを象徴する新しい芸術にいち早く注目した作家として取り上げられたのである。

次に、正反対のウルフ像も同時に作り出されていた例として、“On Not Knowing French” とそれに対する *The New Republic* 読者からの批判的な投稿を分析した。この分析を通し、イギリス人が話す正統な英語をアメリカ人も使えるということを認めない、古い観念にとらわれたイギリス人作家としてウルフが非難されていたことを明らかにした。

当時の *The New Republic* は、アメリカとは何かという問いを常に掲げていたが、常に同誌が目指したアメリカ像は揺れていた。本研究では、この雑誌内で見られたアメリカ像も分析し、その結果、*The New Republic* における矛盾したウルフ像は当時同誌内に見られたアメリカニズムの揺れを反映させていたことを明らかにした。

2) の詳細は以下の通りである。

ヴァージニア・ウルフの “Jane Austen at Sixty” は *The Nation and the Athenaeum* 誌に 1923 年、続いて *The New Republic* 誌に 1924 年に掲載され、その後、大幅な削除や別のテ

クストとの合併を経て、*The Common Reader* 等のエッセイ集に “Jane Austen” として再録された。しかし、雑誌掲載されたテキストが本に収録されるまでの変遷は、一言 “incorporated” で済まされ、各過程には十分な注意が注がれてこなかった。

本研究では、テキストの内容も、出版媒体も異なる三つの作品を同一視してしまうことで、各テキストの意味が抹殺されてしまう危険性を指摘した。

本研究では、三つのバージョンの個別の出版状況やテキストの差異を挙げることで、今後のウルフ研究者が依って立つことのできる一次資料を提供した。また、各バージョンを独立した作品として扱うことを提言した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

内田夕津、アメリカニズムと二人のヴァージニア・ウルフ—*The New Republic* 誌における “The Movies and Reality” と “On Not Knowing French” の受容—、
ヴァージニア・ウルフ研究、第 27 号、2010 年 11 月、pp. 32-51、
日本ヴァージニア・ウルフ協会発行、査読有。

[学会発表] (計 2 件)

1) シンポジウム

内田夕津、
「Theatricality/Anti-theatricality とウルフ」の講師として発表。
2009 年 11 月 7 日、日本ヴァージニア・ウル

フ協会 第29回全国大会 於明治大学。

2) シンポジウム

内田夕津、大学院生シンポジウム第2部のパネル “Textual Versions” (「流動するテキスト」)において、パネリストとして発表。

題名は

“Virginia Woolf’s ‘Jane Austen at Sixty’ in *The New Republic*, an Independent Version”。

2010年10月27日、早稲田大学文学学院文学研究科英文学コース主催、於早稲田大学。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

内田 夕津 (UCHIDA YUZU)

早稲田大学・留学センター・助手

研究者番号：30546255